会報　高鷲の文化財
第９２号
令和７年１月４日発行
高鷲文化財保護協会
題字：麦島　博昭　氏

下川町の概略

下川町（しもかわちょう）は、北海道上川地方の天塩国上川郡にある町。北見山地と天塩山地に囲まれた名寄盆地に位置する。北海道北部を流れる天塩川の支流名寄川の上流部、名寄盆地の東縁にある。北見山地の斜面が大部分を占める。

町名の由来は、当地が名寄川に「パンケヌカナン」（下流のヌカナン川）、「ペンケヌカナン」（上流のヌカナン川）の 2 本の支流が流れ込んでおり、このうち前者を「下の川」と意訳し「下川」としたとされてことから名付けられた。

気候は、真夏には 30 ℃、真冬には-30 ℃に達し寒暖の差が大きく、四季の変化に富む。
下川のアメダスは 1977 年 10 月に統計を開始した。最高気温の極値は 37.3 ℃（2021 年 7 月 28 日）で、猛暑日はこれまでに 5 回観測されている。最低気温の極値は-36.1 ℃（1978 年 2 月 17 日）。平年値で冬日の年間日数は 181.9 日、真冬日 86.2 日。夏日 47.1 日、真夏日 5.1 日、猛暑日 0 日、熱帯夜 0 日。降水量は 7 月から 10 月にかけて多く、10 月から 1 月にかけて雪または雨の降る日が多い。平年値で年間降雪量 820cm、年間の最深積雪は 116cm（1983 年 10 月統計開始）。最深積雪の極値は 175cm（2013 年 3 月 12 日）。日照時間は 11 月から 1 月にかけて少なくなっている（1987 年 6 月統計開始）。

人口は、大正 9 年には 4200 人であったのが、ピーク時の 1960 年（昭和 35 年）には 15,555 人に達し、現在は過疎化が進み令和 24 年には 2817 人となった。鉱山の閉鎖など産業構造の変化とともに過疎化が進んで人口が減少し、現在の人口はピーク時の 5 分の 1 を下回っている。

歴史は、859 年（安政 4 年）に松浦武四郎が箱舘奉行に命ぜられ天塩川流域を踏査し、名寄川およびサンル川まで至り、後に『天塩日誌』を著す。1872 年（明治 5 年）に 開拓使宗谷支庁中主典の佐藤正克が名寄川を拠点に翌年まで越冬調査を行い、後に『闢幽日記』を著す。1888 年（明治 21 年）には 名寄川沿原野（名寄原野）に殖民区画が設定され、明治 30 年には 増毛支庁管内の天塩国上川郡に剣淵、士別、多寄、上名寄の各村が置村され、天塩国上川郡戸長役場管轄となる。現在の下川町の範囲は上名寄村に属す。

明治 34 年、アイヌ人の北風磯吉さんの案内で、手塩国川上郡名寄村上名寄の 17 線に入植した美濃国高鷲村の古屋達造を団長に上名寄原野（現下川町）へ同 34 年に 24 戸 51 名が入植し、翌明治 35 年には北濃村の市村勘助を団長に 26 名、その内高鷲村鷲見から 4 名が参加し、入植した。さらに以前屯田兵として開拓に従事されていた藤原治郎左衛門が入植され、馬を使って開墾したり、米作を行ったりして開拓に貢献されました。このときの入植者数は 48 戸 72 人であった。ただ開拓団には警察や医者、役場がなかった。明治 35 年に 剣淵村他 3 ヶ村戸長役場より分離し、上名寄村他 2 ヶ村（多寄、下名寄）戸長役場を設置する。

明治 38 年になると、 パンケヌカナン駅逓を下川駅逓に、シカリベツ駅逓を一の橋駅逓にそれぞれ改称し、下川の最初の呼称がされる。また五味温泉が発見される。

明治 42 年になると、 多寄村が離れ、上名寄村となり、大正 4 年には、上名寄村が名寄町となる。大正 8 年 10 月 20 日には 名寄線として名寄 - 下川間の鉄道が開通し、翌 9 には名寄線下川 - 上興部間の鉄道が開通、町内を全通した。

大正 15 年になると、 珊瑠鉱山が三井鉱山株式会社による操業を開始する。昭和 16 年 下川鉱山が三菱鉱業株式会社による操業を開始する。昭和 58 年には下川鉱山が休山し、昭和 61 年には 珊瑠鉱山が休山した。

昭和 24 年 12 月 1 日 - 町制施行、下川町となる。平成 18 年 10 月 8 日 下川小学校開校 100 周年記念式典が挙行される。平成 20 年 7 月には 同町が環境モデル都市に選定され、平成 23 年に 同町が環境未来都市に選定された。2000 年（平成 12 年）10 月 1 日 - 開拓 100 年記念式典が挙行され、2000 年代に入って「持続可能な地域社会の実現」を掲げて、バイオマス

を含む森林資源の活用とそれによるエネルギー自給率の向上、集住によるコンパクトタウン化などに取り組んだ。2017 年には、国際連合が提唱した持続可能な開発目標（SDGs）に基づく「ジャパン SDGs アワード」第 1 回で総理大臣賞を受賞した。
スキージャンプが有名で、郊外には 4 つのジャンプ台があり、多くの出身者が、スキージャンプやノルディック複合競技で、ワールドカップ大会やオリンピックの日本代表選手として活躍している。

農業は、酪農が盛んである。稲作の北限地帯に近く、かつての水田は減反政策により大部分が転作された。主な農産物は、地元で加工されるジュース用や高糖度栽培のトマト、絹さやえんどう等の野菜、小麦、ソバ、もち米などである。

林業は、町の面積の約 9 割を森林が占め、その 8 割以上を国有林が占める。木材の搬送は、開拓当初は流送に頼ったが、鉄道の開通で輸送効率が改善され、関東大震災の復興材需要の急増で繁栄した。その後、昭和 29 年の洞爺丸台風では約 280 万石の風倒木被害が発生し、その処理による特需があったが、森林資源の減少、輸入材の台頭などで徐々に衰退している。一方、町では昭和 28 年より本格的な町有林経営を開始し、平成 15 年には 4,300ha を超える町有林を有し、法正林思想に基づき年間 50ha 程度ずつを伐採・栽植する「循環型林業経営」に取り組んでいる。また、町内の民有林や国有林を含めて森林認証を取得し、森林の適正管理を推進している。

鉱業は、金・銀を産出した珊瑠鉱山と、銅・亜鉛を産出した下川鉱山は、いずれも現在は休山し、事実上廃鉱となっている。これらの他にマンガン、砂チタン、亜炭等の鉱床が確認されている。

工業は、次のような会社がある。
スズキ株式会社下川コース（1997 年開設）
マトラスターテクノクラシー株式会社下川工場 - 光学用ガラス、精密機器用ガラス部品の加工、製造を行なう。
下川製箸株式会社

下川町全景

エコマネジメント株式会社（旧下川鉱業株式会社）
下川町手延製麺組合 - 1970 年（昭和 45 年）に兵庫県より手延べ麺技術が導入され、うどん、ひやむぎ、素麺、蕎麦が作られる。
三津橋農産株式会社
山本組木材株式会社
協同組合ウッディしもかわ
下川フォレストファミリー株式会社

旧姉妹都市
岐阜県高鷲村（現・岐阜県郡上市高鷲町、平成 16 年に合併により解消）
京都府京丹波町
友好都市
カナダの旗 ケノーラ（カナダ・オンタリオ州）平成 13 年 2 月 16 日提携

（インターネント「下川町ホームページ」から引用）